

【分野名：社会科学】

大 学 名	大 阪 大 学
拠点のプログラム名称	アンケート調査と実験による行動マクロ動学
中核となる専攻等名	経済学研究科経済学専攻
拠点リーダー氏名	筒 井 義 郎

《拠点形成の概要》

本プロジェクトは、経済学が精密科学として成立するために必要な基礎を与えることを目標として、アンケート調査と経済実験を実施して人々の属性と選好・行動・予想データを収集する。この方法によって、マクロ金融分析、消費・貯蓄行動、市場取引の3分野において、パズルといわれている事象を解き明かし、競合する経済学仮説のいずれが現実に適合するかを明らかにする。さらに、このような目的で収集するデータベースを構築し、公開する。この種のデータベースとしては、アメリカのP S I Dが有名であるが、本プロジェクトは、日米の国際的な比較分析を可能とするデータベースを提供する点に特徴がある。

これまでの経済学は、相対立する理論が長期的に併存するという欠点があった。本プロジェクトは、このような状況から脱却し、経済学を精密科学として確立するための重要なステップである。最近のマクロ経済学は、個人や企業の最適化行動に基礎をおいて理論的に展開されており、個人の選好や企業の生産に関する基本的なパラメータに依存した形でマクロ経済を記述することによって、政策評価にも利用可能な経済モデルを提供できるというメリットがある。このメリットを現実のものとするためには、個人の選好パラメータを把握する必要がある。これは、いわば、行動マクロ経済学と呼ぶべき分野であるが、これまで十分には展開されてこなかった。本プロジェクトは、経済政策の評価を可能にするための実証的基礎を与えるものである。

本プロジェクトには、経済学を基礎におくが、経営科学・社会学・心理学・法学の研究者が参加しており、新しいアプローチを模索するものでもある。すなわち、その学際的性格にすぐれた特徴がある。